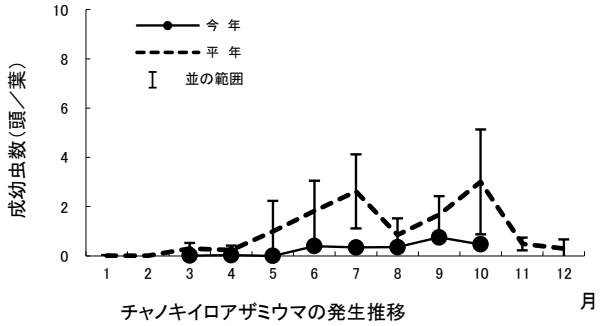
平成　29 年度

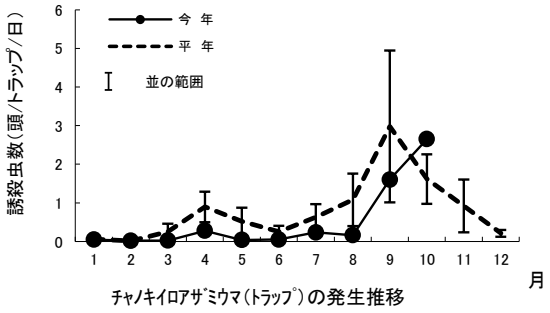
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
10 月の発生量（現況）	並		
11 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移、新梢の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

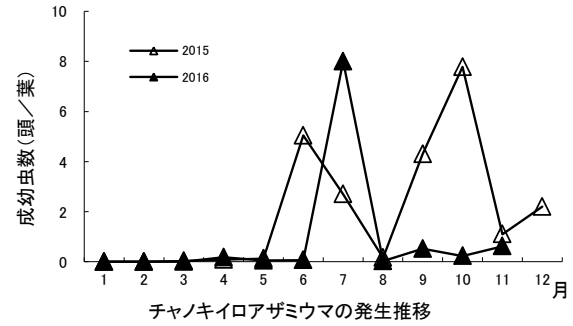
- 10月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.5頭（前年0.2頭、平年3.0頭)と平年よりやや少なかった。
- 10月の黄色粘着トラップへの日・トラップ当たり誘殺虫数は2.7頭（前年0.8頭、平年1.6頭）と平年よりやや多かった。

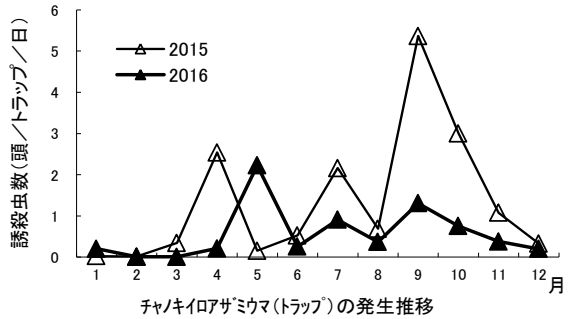
（今年のデータ）





（過去２年のデータ）





防除のポイント

- 不要な新梢は、早い時期に除去する。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 平成29年度病害虫発生予報第5号（平成29年7月27日付）コラム参照。

平成　29 年度

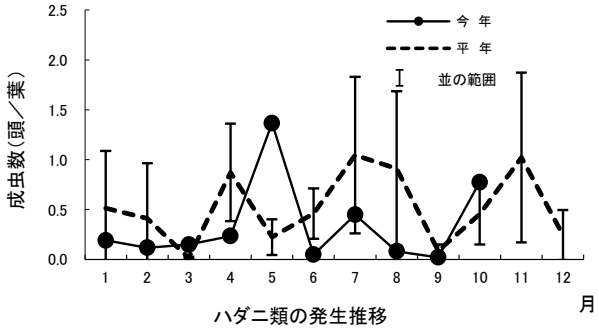
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② ハダニ類		
10 月の発生量（現況）	やや多		
11 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

・ 10月下旬の調査の結果、成葉の葉当たり雌成虫数は0.8頭（前年1.5頭、平年0.5頭)と平年よりやや多かった。また、新葉の葉当たり雌成虫数は0.1頭であった。

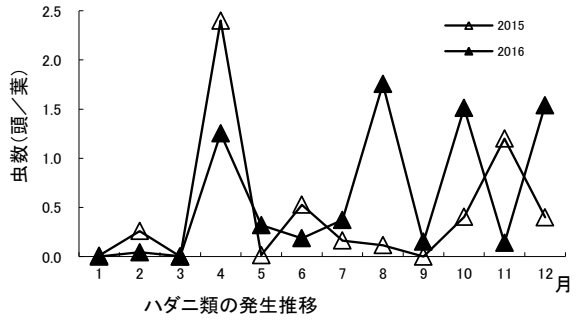
・ 発生種は、全てシュレイツメハダニであった。

（今年のデータ）



ハダニ類の発生推移

（過去２年のデータ）



ハダニ類の発生推移

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・不要な新梢は、早い時期に除去する。

・平成29年度病害虫発生予報第5号（平成29年7月27日付）コラム参照。

平成　29 年度

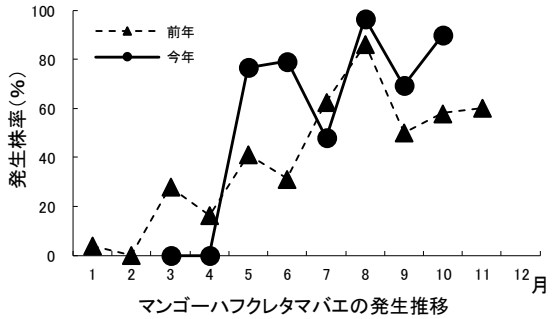
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	マンゴーハフクレタマバエ		
10 月の発生量（現況）	判定不可		
11 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	新梢の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

・ 10月下旬の調査の結果、発生株率は90.0%（前年58.0%)、発生ほ場率は100%（前年100%）であった。

・ データの蓄積不足のため、判定保留。

（今年のデータ）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・不要な新梢は、早い時期に除去する。

・平成29年度病害虫発生予報第5号（平成29年7月27日付）コラム参照。